

# 青パト活動中!

東京都



青梅防犯協会 会長 **高橋 正**



署の中庭で行われた青パトの贈呈式

## 青パトと青梅防犯協会

### ◆青梅防犯協会と活動地域

青梅防犯協会は東京都青梅市と奥多摩町を活動地域としている防犯ボランティア団体です。この地域は東京都の西北端に位置し、市・町合わせて東京都の総面積の6分の1を占める広さで、その80%以上が山林で秩父多摩甲斐国立公園の玄関口にあります。協会は昭和23年4月、戦後の混乱の中、「犯罪のない安心して住める街」を目指して設立されたもので、平成30年には創立70周年を迎えることができました。



新年の安全祈願

現在、役員59名、女性部員

36名(青梅地区)で年間活動計画に合わせて地域の防犯・啓発活動を実施しています。

### ◆青パトの導入経緯

平成21年に日本宝くじ協会の助成事業として東京防犯協会連合会を通じて青パト整備希望の問い合わせがあり、前年に続き申し込みしたところ、今回は整備される予定となりました。納車までに必要な手続き(団体証明書、委嘱書、車検証など)をする一方、役員や自治会長を対象とした「パトロール実施者の講習会」を2度開催し、9月9日に贈呈式と初出動の発式を行いました。

贈呈された青パトには、広報用のカセットデッキ、マイク、拡声器が装備されています。保管場所は青梅警察署敷地内の駐車場、車両の整備、貸し出しなどは協会事務局が管理しています。

### ◆青パトを活用した主な防犯活動の紹介

□学校の春休み・夏休み、歳

期待に込めていきたいと思っています。

### ◆今後の活動

コロナ禍の混乱に付け込んだ営業時間短縮または営業自体を自粛している店舗に対する侵入窃盗など悪質な犯罪が発生している中、青パトによる地域に密着したきめ細かな防犯パトロールなど、協会の防犯・啓発活動はますます重要になってきています。これからも、コロナの感染状況を見極めながら警察、市・町、自治会など関係者より緊密な協力体制をとり地域住民の



青梅マラソン会場でパレードを先導する青パト

### ◆コロナ禍の下での防犯活動

令和2年2月に入ってから新型コロナウイルス感染拡大により、東京都に4月7日緊急事態宣言が発令され、令和3年1月7日に再度緊急事態宣言が発令されました。これにより、都民に集会やイベントの自粛が要請されたため、協会も例年予定している行事のほとんどが中止になりました。

そのため、令和2年10月の全国各地域安全運動は計画を変更し、①役員2人から4人のグループによる青パトを利用した防犯パトロールと②自治会が地区ごとに実施する防犯パトロールと2系統に分けて実施することにしました。青パトは、女性部員も参加して振り込め詐欺など特殊詐欺被害防止の啓発テープを活用し、市内を巡回して市民に注意を呼びかけました。

これからの啓発活動は、十分な感染防止対策をした上で、安全かつ効果的な活動を行ってまいります。

### 地域の安全パトロールを 実施しています



### 青梅警察署・青梅防犯協会

オリジナルデザインの啓発用ポケットティッシュ

- 末、年金支給日に役員及び女性部によるパトロールを実施
- 希望する自治会へ貸し出して、自主的な地区パトロールを支援
- 特殊詐欺の入電地区や学校や公園周辺などの不審者情報があった地区を重点的にパトロール
- 登下校時に青パトを活用した子どもの安全見守り活動
- 啓発用品(ポケットティッシュ)のオリジナルデザインに採用し、イベントなどで配布

### わが街の名物・行事

#### ここが自慢

#### 伝統ある青梅マラソンと深谷駅伝大会

青梅市は都心から西へ50km、隣接する奥多摩町とともに埼玉県、山梨県との県境を接する豊かな自然に囲まれた東京の奥座敷です。

地域を縦断する多摩川に沿って、古くから石炭、木材、織物などの産業で発展してきました。そのため、多くの歴史的文化的財や祭りなどの伝統行事が伝承されています。

昭和42年3月に「円谷(東京五輪マラソンの名選手)と走ろう」を合言葉に誰でも参加できる大衆マラソンとして始まったのが第1回「青梅マラソン」で、参加者337人でした。

回を重ね令和2年2月に開催された第54回大会には全国から15,256人の参加者があり早春の青梅路を走り抜けました。また、令和2年12月に開催された第82回「奥多摩深谷駅伝競走大会」は、一般、大学、高校、女子の4部門で合わせて197チームが参加し、深谷に沿って変化する美しい景色の中を走りタスキを繋いでいきました。